

# 認知症を知って支え合おう！

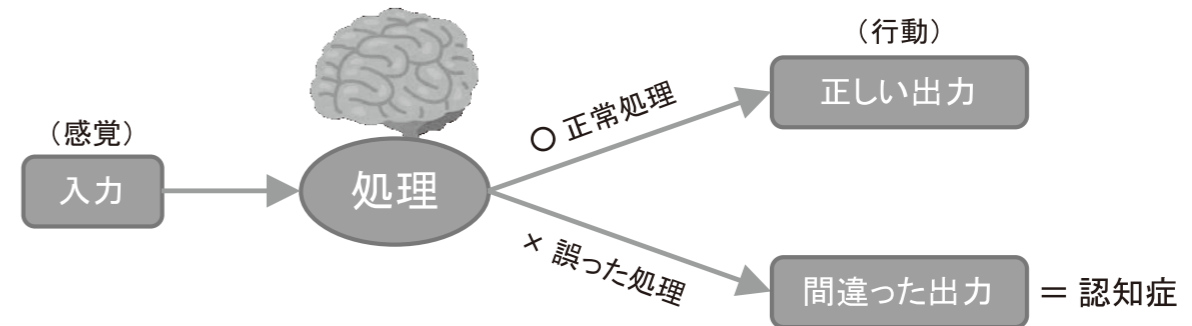
3 すべての人に健康と福祉を

◆9月21日は『世界アルツハイマーデー』です

1994年9月21日、スコットランドのエンジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。会議の初日であるこの日を『世界アルツハイマーデー』と宣言し、この日を中心に認知症の啓もうを実施しています。また、9月を『世界アルツハイマー月間』と定め、様々な取り組みを行っています。

◆認知症はより身近な病気に

認知症とは、「記憶」「学習」「判断」「計画」といった脳の知的機能（認知機能）が、さまざまな原因により持続的に低下し、日常生活・社会生活に支障をきたした状態のことを言います。  
脳はさまざまな情報を入力（感覚）し、それらを統合解釈して出力（行動）するという複雑な処理過程を繰り返しています。そのため、脳が障害されると情報処理が上手く行えないため、適切な行動ができなくなってしまうのです。これが認知症の病態です。



症状	具体例
記憶障害	新しいことを覚えられない、覚えたことを必要なときに引き出せない
判断力の低下	状況に合った適切な行動を選べない
理解力の低下	見たり、聞いたりしたことを認識できない
見当識障害	時間、場所、人がわからない
実行機能障害	慣れているはずのことが段取りよくできない

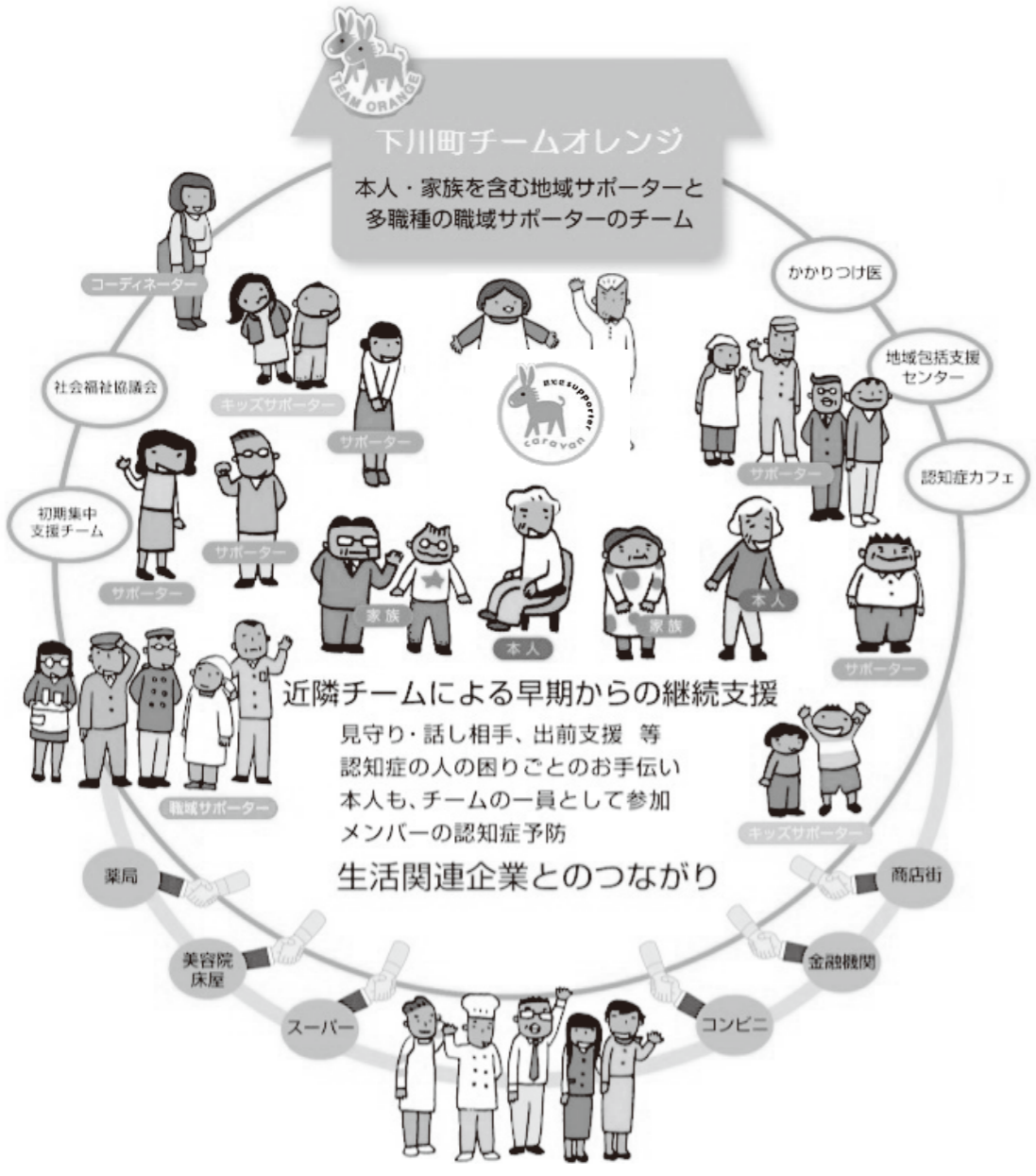
認知症は糖尿病や高血圧、脂質異常などの生活習慣病が基礎疾患として大きな影響を及ぼします。生活習慣病の発症や重症化を予防するライフスタイルによって、認知症の発症を遅らせることが期待されています。  
予防に努めることで認知症の発症リスクを減らすことはできませんが、必ず防げるというわけではありません。団塊の世代が75歳を迎える2025年、それ以降も日本の高齢者人口は増えていき、それに伴い認知症高齢者も増えることが予想されています。下川町も例外ではありません。認知症の人が身近に当たり前にいる時代はすぐそこに迫っています。それは同時に、自身が認知症になる可能性も多いにあるということです。



◆「ワンチーム」で見守り 支え合おう！

身近な人が認知症になるかもしれない時代だからこそ、1人でも多くの人が認知症の事を理解し、下川町民全体がワンチームとなつて認知症の人を見守り支えられる町になれば、いずれ自分が認知症になつても安心して住み続けることができる町になると思います。

町では、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者『認知症サポーター』の養成を進め、多くのサポーターによって本人・家族を支えられる仕組みづくりを目指しています。このような取り組みを『チームオレンジ』と言います。町じゅうの人達、認知症本人や家族も、みんながサポーターとなり、下川町民全体がひとつのチームとなつて認知症の方に寄り添える町になればと思います。



困りごとや不安なことは、お気軽にご相談ください。  
電話や訪問でも相談をお受けしています。  
いい老後  
総合福祉センターハピネス内「地域包括支援センター」 ☎5-1165